

## 事業報告書

事業名	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
<b>【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】</b>	
<p>様々な障がいを持つ子供たちとその母親、保護者にスポットを当てたイベントにする。</p> <p>オリジナル打楽器を作り、その楽器と共に生の本格打楽器を気軽に楽しむ体験型コンサート。見る、聴く、触る、そして、作るという項目を加え、五感に刺激し、子供の成長過程と一緒に音楽アートで楽しむ日とする。イベントに出かけられない状況下で問題を抱えている児童達と共にその保護者の集まる施設に出張する。</p> <p>子供たちが創作する楽器の飾りつけの色とりどり、数百種類のパーツ飾りつけを団体手作りで用意し、世界に一つだけのオリジナル楽器を作る。プログラムは、オリジナル製作打楽器とのコラボレーションも行う。</p> <p>打楽器は振動がとても大きいので耳が聴こえなくても音を感じることができる。どんな子供たちも同じ曲で最大限できることで一緒に演奏することができる。</p> <p>また、手作り楽器は派手な色のキットやもこもこの手触りのキットなど目が見えなくても手触りの違うもので楽しめるようにする。</p> <p>またコロナ感染症が騒がれているが、障がいを持つ子供たちは感染症に弱かったり、演奏会に出かけるのはリスクが高い。感染など気を配った普段から通いなれた施設で行うことで、リスクの軽減を図る。</p> <p>またその施設内で母親同士の関わり、施設の人との関わり、あらゆる「社会との関わり」が出来、子育て情報や障がいについての情報を得る機会となる。また、イベント開催することによって社会・行政の方から子育てに困難を極めている母親達に気づく可能性が高まる。母親たちはこれを機に悩みを共有できる仲間作りや、相談やカウンセリングが出来る機関を知るきっかけとする。子育てで安心・安全な居場所を知ってもらおう。</p>	
<b>【実施結果(成果)】</b>	
<p><b>参加人数・チラシ発行部数</b></p> <p>シャインさぎぬま 40名、マオポポ 40名、ホップステップ 30名、シュウエール 30名、リアライズ 60名 計200名</p> <p><b>イベント・Youtubeチラシ</b></p> <p>シャインさぎぬま100部、マオポポ100部、ホップステップ100部、シュウエール100部、リアライズ100部 計500部</p> <p><b>一緒に作る 0分【作る・創造する】</b></p> <p>作る→今年度はオリジナル楽器制作の時間は感染症対策のため、中止。代わりに4種類(シェーカー、マラカス、タンバリン、鈴)から選んでもらいプレゼント。飾りつけキットはあらかじめ個別パッケージし、飾りつけは自宅、または後日事業所で行う。</p> <p><b>コンサート 30~60分【聴く・見る・歌う・踊る】</b></p> <p>アクリルカーテン、フェイスガード越しに密を避けてのコンサート実施。打楽器ならではの迫力は変わらず表現でき、子供たちにも楽しんでもらえた。</p> <p>また子供の年齢、障がいの程度に合わせたプログラム、音量の考慮など当日瞬時の工夫もできた。</p> <p><b>体験コーナー 20分【リズムに合わせる・体験する】</b></p>	

当方で作ったオリジナル楽器を選択する喜びがあった。また選んだものと本格打楽器との合奏でその場で一体感が生まれた。コンサート後の体験コーナーでは子供たちのソーシャルディスタンスを保つよう、奏者から指示し、体験している隣同士が距離をあけられる立ち位置カードの用意をした。子供たちの使用するパチが使いまわしされないように計画当初からマレット大量用意、都度のアルコール消毒によって、こういった状況下でも本物の音の体験ができた。この経験が家に帰って保護者との会話のきっかけとなり、音楽や芸術への興味によって、可能性のある子供たちの世界を広げることができた

#### 対象者・募集方法

放課後等デイサービスや、障がいをもった未就学児を抱える保護者団体

#### 感染者予防対策

感染症対策を早めに計画したことで全箇所実施。アクリルカーテン、奏者のPCR検査、MA-Tによる加湿器使用、フェイスガード、体験用パチの都度消毒、マスク、アルコール消毒、体温計完備、ソーシャルディスタンスの徹底によって、当初企画した事業のほとんどが実行できた。

### 【実際の効果と課題】

コロナウィルスの影響で保護者のリアル参加は極力避けたが、その代わり限定公開 YouTube によって後日わが子の普通の保育の状況とコンサートの様子を家で楽しめた。

見る、聞く、触る、さらに後日家や事業所でオリジナル楽器を飾りつけする、で五感に刺激をする参加型コンサート実施はコロナ渦でも実現できた。

また普段でもなかなか出かけることができない子供たちはいつもの居場所に当団体が出張することで、気軽にアートに親しみ、感染症対策の徹底で事業所、保護者も安心しながらコンサートに集中できる開催となった。

オリジナル打楽器の制作の時間はコロナウィルス感染症対策として当日には設定しなかったが、その代わりまた別日に保護者やスタッフの方々とコンサートの思い出を語り合う場を作れた。

今回訪れた放課後等デイサービスは重度の身体的な障がいを抱える子供たちは少なかったが、普段から音が苦手な子、その場でじっとしてられない子も多数の中、なかなか見られない集中力や、音への関心を示す子供たちの様子にスタッフの方々に高い評価をいただいた。今年度各事業所が企画していた全てのイベントが中止となってしまった中、この企画は全箇所とても充実した内容となった。心配した緊急事態宣言でも決まっていた箇所は中止とはならず実施された。

この時代に突入して母親たちの工夫で ICT 活用による情報交換が行われている施設があったり、YouTube によってわが子の姿、通っているスタッフの雰囲気知る機会を設けたり、施設側も今までにない取り組みを行う体制だった。子供たちのためにコロナ渦でもなんとか楽しい時間をという同じ気持ちで当団体と協働・協力のもと事業は成功できた。

また当団体の活動に共感を持つ人が増え、その行動としてメディアや口コミを通じて広く伝えられ、周知が広がり団体としても大きく成長できた。